

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、夢や希望を持ち続け、未来を生き抜く児童」の育成					
基本方針	児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。					
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と向上 2 学校全体で進める生徒指導・特別支援教育の充実 3 ふるさと学習の推進 4 学校運営協議会の充実・発展 5 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化及び働きがい改革					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	A
			・具体的な対策の実施	A		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	C	C		
		・保護者アンケート	C			
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDに関連する学習	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B
・保護者アンケート				B		
・児童生徒アンケート				B		
(成果と課題) ○各学年の実態に合わせ、計画的にふるさと学習を実施することができた。地域学校協働活動推進員に日程調整や講師への連絡等を任せることで、教師の負担を減らしながら円滑に学習を進めることができた。 ●前期同様、読書に関する評価が、教師、保護者、児童とも低い。読書への関心意欲を高められるような、効果的な取組を実施することができなかった。						
(改善策等) ・EILSを効果的に活用するための研修を継続して行っていく。EILSを使った課題等を定期的実施するよう、教職員全体で意識統一を図る。 ・読書週間や読書の日を設定したり、読書を頑張っている児童を定期的に称賛したりするなど、学校図書館主任を中心に、児童の読書への関心意欲を高める取組みを学校全体で検討し、継続的に実施していく。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A		
		・児童生徒アンケート	A			
		・保護者アンケート	A			
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	C	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	C	
			・児童生徒アンケート	C		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート		B
・児童生徒アンケート	C					
(成果と課題) ○生徒指導上の問題に対し、生徒指導主事や管理職、他の教職員との情報交換が密にできている。問題があった場合、全教職員で連携し、迅速に対応ができていた。 ○児童の意識に顕著な向上は見られないが、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるために、教師が意図的な工夫をしながら実践することはできてきた。 ●スクールソーシャルワーカーには熱心に話を聞いていただいているが、訪問回数が少ないので「活用」というよりは「報告」の意味合いが強い。わかたけは現在利用者なし。						
(改善策等) ・学習や学校生活に落ちて取り組めない児童が数名いる。家庭や関係機関と協力しながら、一人一人の特性に合ったよりよい支援体制を構築していく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B A	B
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○困ったときに相談しやすい雰囲気があり、報告・連絡・相談を行う体制づくりが十分なされている。 ○全教員がスクールサポートスタッフを積極的に活用しており、教員の業務軽減につながっている。 ●課外活動(陸上や音楽)の指導がある時期に、勤務時間が長くなってしまった教員がいた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・課外活動の指導が、特定の指導者の過度な負担にならないよう、練習時間の短縮や休業日の練習禁止等を検討しながら、無理のない計画を立てていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会で協議した「保護者サポーター制度」を保護者に周知し、実践した。持久走練習の見守りで多くの保護者の協力を得ることができ、児童が安全に走行することができた。 ○教育活動に関する情報を、ホームページや学校だより・学級通信等で、定期的に家庭や地域に発信することができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・今後も、保護者や地域の方々の声を真摯に受け止め、信頼される学校づくりに努めていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満